
探偵のような

酒井 薫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

探偵のような

【Nコード】

N3065Z

【作者名】

酒井 薫

【あらすじ】

ちよつとスカした青年が事件に巻き込まれて……。

依頼者

小雨が降る朝のことだった。その女はアパートの外階段のそばに姿を現し、それからすぐに俺と目が合って、少し困惑した表情をみせた。

俺は用事を済ませて事務所を立ち去るところだったのだが、女の様子を見て、彼女から話しかけられるのを待った方がいいと直感的に判断した。

「あの……そちらの探偵事務所の方でしょうか？」緊張した様子を隠しきれずにその女は言った。

俺は当たっても外れても得しない勘だけはいつも鋭い。

「そうですね」

女の見た目はかなり若く、まだ十代の後半ぐらいで、自分と同世代のように思えた。黒いロングコートの裾から濃紺のスカートが覗く服装のせいなのか、年齢の割に地味な印象だった。もっとも、俺の服装もスカート以外は似たようなものだったが。

「相談したいことがあるんですが……」

彼女の消え入りそうにか細い言葉の語尾が、微かに震えたように聞こえた。その震えが寒さからくるものなのか、他の理由によるものなのかは分からなかった。

「調査の依頼ということですか。詳しい話は事務所の中で伺いましょう」

世間はクリスマススイブだからと訳もなく浮かれているようだったが、依頼を受けて浮かれる探偵などこの世に存在するのだろうか。彼女がサンタクロースからの少し早めの贈り物だとすると、サンタは届ける相手を間違えたことになるかもしれない。ここは俺の兄が経営する探偵事務所、その兄は現在入院しており、俺は卒業

の目処が立たない大学生にすぎなかった。

アパートの廊下では白い息と朝靄が邪魔をしてはつきりとはわからなかったのだが、斉藤郁と名乗る^{かおる}18歳の女子大生は、とても美しい顔立ちをしていた。最近流行りの大きな目と、薄い上唇が特に魅力的で、俺の好みのタイプでもあった。

「依頼の内容を伺う前に、言うておかなければならないことがあります」

「なんででしょうか？」彼女はそう言って、やや不審そうな顔で首を傾げた。

「実は、この探偵事務所の経営者は俺の兄で、俺は探偵ではありません。入院中の兄に頼まれてここを訪れた帰り際に、あなたに出会ったことになりました」

「そういうわけで、法律上の問題もあるので、あなたの依頼を俺が引き受けるわけにはいかない。だから、兄の退院を待つて出直すか、他の探偵事務所を探してもらうしかないんです」

現在の状況と自分の立場を彼女に伝えたのだが、本心は言わなかった。

彼女は、多少の戸惑いと納得とが入り混じったような表情をして、俺の顔を見つめていた。ここで俺は、あらためて彼女が「かわいらしい」と思ったのと同時に、自分の容姿にそこそこの自信があったことを思い出し、軽く微笑んでみせた。

「そうだったんですか。でも……そうですよ、いきなり押し掛けて、申し訳ありませんでした」

彼女はそう言うと、ドアのほうへと歩きだした。

このまま彼女を見送るのが、この場合最も正しい対応だと思った。探偵事務所を訪れる若い女などに口クナ奴はいないだろうし、明らかに彼女は「ワケあり」だと感じてしまった。しかし、どうやら世間だけでなく、自分にも少しは浮かれたところがあるらしい、そう思うことにした。

俺は彼女の儂げな後ろ姿に向かって話しかけずにはいられなかった。

「斉藤さん」

彼女は足を止め、振り向いた。

「余計なお世話かもしれないけど、俺があなたの調査を手伝うことはできません」

「す。仕事としてではなく、あくまで個人的にということなら……」

「えっ、いいんですか？」

「兄の不在が理由で困っている人を、代わりに弟が助けようとしても、特別異常なことではないでしょう」

「好意については言えるわけがないのだった。それこそ、どこかに異常でもなければ。」

「あなたにとつては迷惑なだけでも？」そう言って、彼女は薄く微笑んだようだった。おそらく、今日になって初めての笑顔なのだろう。

「それは構わないですよ、内容にもよるけど。ではさっそく、依頼について話してもらえますか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3065z/>

探偵のような

2011年12月10日20時51分発行